

11月になりました。さすがに秋の気配が… 2学期も折り返し地点に到達しました。

お隣の声を、耳を澄ませて聴く

本年度の学習発表会も、盛会のうちに終わることができました。保護者の皆様には、様々な面でご支援をいただき、心から感謝しております。特に、執行部の皆様には当日の誘導などもお世話になりました。

手前みそにはなりますが、本校の先生方の工夫やアイデアも素敵だったなあ。みんな個性的で、そのエンターティナーぶりにわくわくさせられました。もしよかったら、今度お家の方からも、先生方にお声をかけていただけたら嬉しいです。



そして、我が楡木の子どもたちの素晴らしさ。たくましさ。いじらしさ。当日までの取り組みも含め、素敵な頑張りに思わず涙が出ます。なんだか、一人ひとりなんだけど一人じゃない感じ。今回もですが、行事等に取り組む子どもたちには、一人ひとりがみんなのために力を尽くす一体感が感じられる姿が見え隠れしているような気がする(した)んです。

唐突ですが、自分の声が、自分の声じゃない、と思うことってありませんか。録音した声が、他人の声と感じた経験が、私にはあります。その理由は、声の伝わり方にあるとのこと。

声の伝わり方には、「骨伝導」と「空気電動」という2種類があるそうです。「骨伝導」とは、生体から発せられる声(音)が頭蓋骨などの骨を通じて内耳に伝わる方法だそう。対して「空気電動」は、空気の振動によって外耳を通して内耳に通じる伝わり方です。自分の声を聴くときには、その2つともがかかわるようで、一般的な音は「空気電動」で伝わってくる。この伝わり方の違いが原因、とのこと。ちなみに、「骨伝導」は低音域の音が強調されるため、自分で聞いている音は、より豊かで低いトーンに聞こえる場合が多いそうです。

それに加え、自分の声に対する自身の認識は、ずっと頭の中でその声が鳴り響いているわけだから、録音された音=いわゆる他者が聞く自分の声を”おかしい声“と思い、違和感のある自身の声を否定しがち、だとか。「自分の声じゃな〜い」と嘆くのもうなずけます。

本当の自分の声を聴くことは、とても難しいことなんだな。

自分の声は、自分自身では上手に聞くことができない。だから、他者の力をちょっと借りねばならない。だから、お隣の声を、耳を澄ませながらしっかり聴く、という活動を通して、自分自身の大切な声を受け取ることができる。

これは、合唱などにおける自分の声を聴く場面に限ったことではないと思います。普段の生活の中で、自分自身を見つめ直し、なりたい自分になれているのかを内省するためにも、他者を通して自分を見つめる。本当に、それでよかったのか、という問いの答えは、実は自分の中にはない、ということが往々にしてあります。他者の言葉に耳をそばだて、その声に乗ってくる自分自身の言動の意味をかみしめ、謙虚に慎み深く自分自身を顧みる。

翻って、行事等において子どもたちが見せる一体感も、この内省の場面なのではないか。あくまで、仮説ですが…

とはいえ私は、この学習発表会を通じて、耳を澄ませてお隣の友達の声聴き、そのリズムに、メロディーに、学びに、懸命にすり合わせようとする素敵な子どもたちの内省する場面にたくさん出合いました。腹の底から響く声の重なりを、たくさん聴くことができました。

それを、もしかしたら成長と呼ぶのかもしれない。